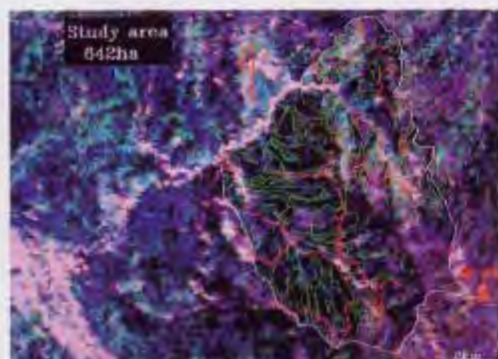


グリーン・トピックス

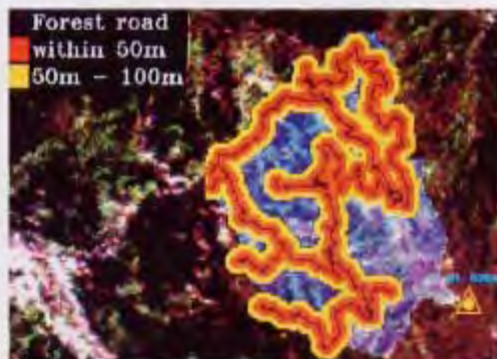
北海道立林業試験場

No.9

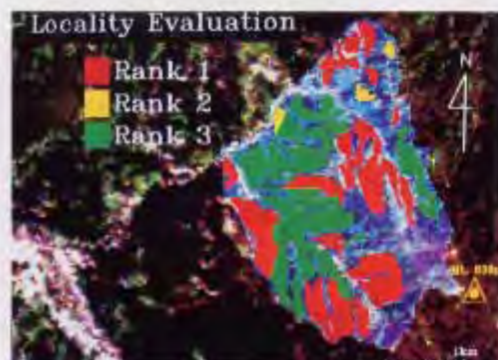
衛星リモートセンシング技術を活用した人工林の地利級と現況区分の把握



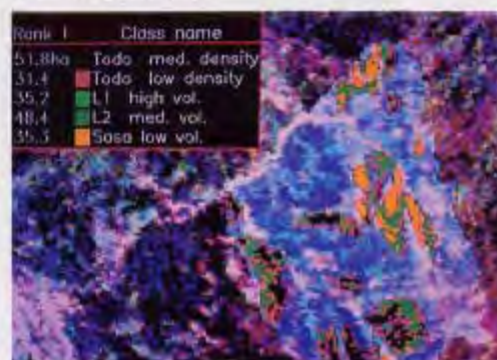
森林基本図を使って衛星画像の歪みを補正し、林道(茶色)トドマツ小班(緑色)を重ね合わせました。



集材経費の面から、三つの地利級(林道(茶色)から50m以内を橙色、50~100mを黄色、100m以上)に区分し、画像化しました。



各小班の地利をクラス分けしました。地利の良いほうからランク1(赤色)、ランク2(黄色)、ランク3(緑色)。



衛星画像による人工林の現況区分を組み合わせ、地利のランク1の小班について現況区分を表示しました。ある地利級の人工林の現況がどうなっているのが、すぐに分かります。これに基づいて、どの小班で間伐を実施するのが適切かを容易に判断できます。トドマツ密林分(茶色)、トドマツ疎林分(桃色)、広葉樹高喬植林分(緑色)、広葉樹中喬植林分(深緑色)、笹地(黄色)

衛星リモートセンシング技術と地理情報システム(GIS)を組み合わせ、人工林の地利級や現況を森林基本図(5千分の1)上で区分する手法を開発しました。この技術は目的に応じて情報の検索・集計・画像表示ができることから、作業道の整備や間伐対象地の選定などの森林管理の年次計画を策定する場合などに役立ちます。写真の対象地は道有林岩見沢経営区82~84林班です。